

板橋区多文化共生まちづくり推進計画 2020 の主な成果と進捗状況

板橋区多文化共生まちづくり推進計画 2020（平成 28 年 3 月策定）では、「『もてなしの心』で言葉や文化のちがいを認め合い、外国人とともに暮らすふれあいと活力のあるまち」の実現に向けて、3つの施策の柱、11の施策項目のもとに 49 の計画事業を進めており、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催を踏まえた施策の展開」「多言語化対応のさらなる充実」「多文化共生まちづくり推進のための人づくり」の3つを重点目標として取り組んでいます。施策の柱ごとに、令和元年度までの進捗状況を紹介します。

施策の柱 1 コミュニケーション支援

外国人にもわかりやすいサインの表示

区では、公共施設の改築・改修等に併せて施設内案内板の多言語化を進めています。平成 30 年度には、「板橋区屋外案内標識デザインガイドライン」を策定したほか、文化会館の館内・館外サインの多言語化・ピクトグラム表示を行いました。令和元年度には、美術館リニューアルと小豆沢体育館プールの整備に伴い、館内サインの多言語化とピクトグラム表示、及び周辺の屋外案内標識の多言語化を行いました。また、道路標識の英語化については、2か年で実施予定であったところを平成 30 年度の1か年で完了しました。今後、新中央図書館周辺におけるサインの多言語化を予定しています。



◆文化会館内サイン

多様な言語、メディアによる行政・生活情報の提供

多言語による観光ガイドマップの作成に加え、平成 30 年度には観光アプリ「ITA-マニア」をリリースしました（英・中・韓・仏 対応）。文化・国際交流財団の SNS、ホームページ、情報誌「アイシェフ・ボード」等においても積極的に情報を多言語で発信しています。今後、窓口に来庁者する外国人の増加に対応するため、電話通訳の導入拡充を予定しています。



◆観光アプリ「ITA-マニア」

日本語及び日本社会に関する学習機会の提供

文化・国際交流財団では、初級日本語教室を実施しています。令和元年度にこれまでの2コースにおいてカリキュラムの見直しを行ったほか、新たに水曜会話サロンを開始しました。日本語ボランティア教師の養成と質の向上に取り組んでいるほか、区内で開かれているボランティア日本語教室への支援も行っています。

（財団・初級日本語教室）

月・木コース（午前）／火・金コース（夜間）／水曜会話サロン（午前・夜間）

いずれも前期（4～9月）後期（10～3月）の2部制

会場：主にグリーンホール



◆水曜会話サロンの様子

施策の柱 2 生活支援

日本語の学習支援

外国人児童・生徒への日本語学習初期支援については、小学校3校、中学校2校で日本語学級（通級）を設置しているほか、日本語適応指導員（中国語）、ことば支援員を派遣しています。

さらに、令和元年度からは、日本語での意思疎通が困難な児童・生徒が区立の学校に就学するにあたり、学校生活に必要な最低限の日本語の基礎を習得し、学校生活に早期に適応できるよう、日本語を短期間で集中的に学ぶ「日本語あいうえお 初期集中講座」を開催しました。今後も、外国人児童・生徒数の増加傾向を踏まえ、対策の充実を検討していきます。

（外国人児童・生徒への日本語学習初期支援）

開催数：夏期講座＋春期講座（各講座午前・午後）＝4コース

日数・時間数：各9日間、1日3時間

講座の延べ時間数：1日3時間×9日間×4コース＝108時間



◆日本語学習初期支援事業

多文化共生の視点に立った国際理解教育の推進

文化・国際交流財団では、あいキッズや小中学校へ、外国の文化・習慣を紹介するボランティアを派遣し、国際理解教育の推進に取り組んでいます。東京 2020 大会を見据え、派遣回数は増加傾向にあります。外国人ボランティア講師に加え、JICA（青年海外協力隊）からも講師を派遣することで、より多くの回数を実施することができ、紹介する国・地域の種類も広げることができています（派遣回数：平成 28 年度 10 回→令和元年度 23 回）。

また、区立小中学校及び幼稚園において、日本の文化や世界各国の言語・文化・歴史等を学び、世界の多様性や様々な価値観について理解を深めるオリンピック・パラリンピック教育も行っています。



◆国際理解教育（タイ）

災害に対する備えの充実

板橋区、文化・国際交流財団、大東文化大学、志村消防署が連携して、留学生を対象とした防災訓練を実施しています。初期消火、AED、起震車等体験型の防災訓練を行うとともに、多言語による防災マップ、救急カード、防災ガイドブックなどを併せて配付して、地震などの災害に対する備えや防災意識の啓発を啓発しています。参加する外国人の要望に応じて、英語・中国語・韓国語の通訳ボランティアを配置しています。区内6大学にも参加を呼びかけ、さらに事業の充実を図っています。防災訓練にて配付している資料は、文化・国際交流財団のホームページに掲載することで、より多くの外国人が防災情報を得られるよう努めています。



◆外国人対象の防災訓練

施策の柱3 多文化共生の人づくり

姉妹都市等との区民交流

区では、平成 30 年度に板橋区の海外姉妹友好都市 5 つを紹介するイベントを行いました。会場中央には、来場者が直接メッセージを書くことで各都市にメッセージを発信できるコーナーを設け、区民の姉妹都市等との交流を促進しました。また、360 度カメラで撮影した会場の様子を Google ストリートビューにて公開することで、期間中に来場できない方や海外姉妹友好都市の方も、まるで会場にいるかのような雰囲気を楽しむことができるようにした。

文化・国際交流財団では、区の姉妹都市・友好都市との周年事業に合わせて、区民交流事業を実施しています。令和元年度はバーリントン市青少年ホームステイツアーを行い、区内の 15 歳～23 歳の青少年 10 名がバーリントン市で 6 泊 8 日のホームステイを実施し、ホストファミリーとの交流や英語研修、学生ミュージカルへの挑戦などを行いました。青少年の友好交流の輪を広げ、多文化共生を担う人材の育成を推進しています。

また、カナダ文化を紹介する体験型のワークショップや、文化紹介講座を実施し、区民が外国文化に触れ合える機会を提供しました。（カナダの先住民族のお守り”ドリームキャッチャー”づくりワークショップ参加者数 40 名、カナダ文化講座「"Oh Canada!"～カナダの英語とその多文化社会～」参加者数 37 名）



◆海外姉妹友好都市紹介イベント



◆バーリントン市青少年ホームステイツアー

ホームステイ・ホームビジットの実施

文化・国際交流財団は、ホームステイの他に、ホームステイよりも気軽に日本の家庭で外国人と交流できるよう、区内在住の留学生が宿泊なしで家庭を訪問するホームビジット事業も行っています。平成 30 年度は 34 名の留学生・20 世帯のホストファミリーが参加しました。令和元年度は、バーリントン市姉妹都市提携 30 周年記念で区を訪れた市民訪問団 16 名（うちホームビジット 1 名・ホームステイ 8 名）の受入を行い、歓迎セレモニーへの出席や区内案内等を行いました。

今後も、ホームステイ・ホームビジットを通じて、地域社会の交流を促進し多文化共生のまちづくりを推進していきます。



◆ホストファミリーと阿波踊りを踊るバーリントン市民

多文化共生意識の醸成

外国人や大学生がともに街を歩き、区の魅力を再発見したり、大学と連携して区民と職員がともに多文化や英語を学ぶ講座を開催したりするなど、東京 2020 大会に向けて、MOTENASHI プロジェクトを推進し、もてなしの心の醸成に取り組んでいます。令和元年度は、新たに、やさしい日本語をテーマとした職場研修「外国人に伝える力～優しく易しくコミュニケーション～」を実施し、職員の多文化共生意識の醸成にも積極的に取り組んでいます。



◆やさしい日本語をテーマとした職場研修

令和元年度・令和2年度（計画最終年度）における計画事業の進捗状況（見込み）

めざす 将来像	施策の柱	施策項目	進捗状況				
			達成	順調	維持	停滞	合計
「もてなしの心」で言葉や文化のちがいを認め合い、外国人とともに暮らすふれあいと活力のあるまち「板橋」	コミュニケーション支援	多様な言語、メディアによる行政・生活情報の提供	0 (8)	9 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)
		外国人にもわかりやすいサインの表示	2 (4)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)
		日本語及び日本社会に関する学習機会の提供	0 (3)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)
	生活支援	日常生活における各種支援	0 (9)	9 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)
		子育て・教育支援サービスの利用促進	0 (4)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)
		日本語の学習支援	0 (2)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (3)
		多文化共生の視点に立った国際理解教育の推進	0 (2)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
		災害に対する備えの充実	0 (2)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (3)
	多文化共生の人づくり	啓発・交流事業の実施及び活動支援	0 (4)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)
		多文化共生意識の醸成	0 (4)	5 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)
		外国人の社会参画推進	0 (3)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)
合計			2 (45)	47(4)	0 (0)	0 (0)	49(49)

※数値は令和元年度、（ ）内は令和2年度進捗状況見込み

「達成」：計画どおり、または計画より早く進捗し、目標を達成している

「順調」：目標の達成に向け順調に進捗しており、事業継続により目標達成が見込める

「維持」：必ずしも上向き傾向ではないが、事業継続により目標達成が期待できる

「停滞」：目標に対して進展していない

評価指標における進捗状況

評価指標	計画策定時	現状値	目標値
過去1年間で外国人とコミュニケーションがあった区民の割合	36.5% (平成26年度)	59.5% (令和元年度)	41.0%
多文化共生推進イベント参加者数	2,575人 (平成23～26年度累計) (644人/年)	1,772人 (平成28～令和元年度累計) (443人/年)	3,300人 (平成28～令和2年度累計) (660人/年)
区設置サインのユニバーサルデザイン化実施の割合	—	66.7% (令和元年度)	100%

※多文化共生推進イベント…多文化紹介シリーズ、外国人による日本語スピーチ大会、国際交流サロン

※区設置サイン目標…区施設6か所（文化会館、グリーンホール、美術館、小豆沢プール、東板橋体育館、中央図書館）＋屋外案内サイン3か所（小豆沢周辺屋内案内標識など）

- 過去1年間で外国人とコミュニケーションがあった区民の割合は増加し、すでに目標値を上回っています。外国人住民が増加傾向にある中、様々な国際交流事業を通して、多文化共生を推進してきた一定の成果が上がっています。
- 区施設内サインの多言語化は、文化会館、グリーンホール、美術館、小豆沢プールについて実施したほか、今後の改築・大規模改修に併せて計画的に実施していきます。また、屋外案内標識は平成30年度に「板橋区屋外案内標識デザインガイドライン」を策定し、東京2020大会を契機として整備を推進しています。
- 一方、外国人住民の増加に伴い、通訳・翻訳の需要増大への対応のほか、日本語教育のさらなる充実、わかりやすい日本語の使用、地域における交流促進と災害対策などが今後の課題となっています。